

## 令和2年度 第2回鳥取県立図書館協議会概要

- 1 日時 令和3年3月3日 10:30から
- 2 場所 鳥取県立図書館大研修室
- 3 出席委員：井口委員、岡本委員、池田委員、嘉賀委員、木下委員、中村委員、  
西山委員、いしかわ委員、澤田委員、大西委員  
県立図書館：網浜館長、北村副館長、岩尾課長、松田課長、中尾課長、藤井課長、  
野沢課長、福市係長

### ○事務局より

- ・会議の成立：鳥取県立図書館協議会運営規程第3条により会議の成立
- ・会議の公開：鳥取県情報公開条例第37条により会議を公開
- ・議長の選出：自薦他薦がなかったため、井口委員を事務局案として提案して各委員の了承を得た。

### ○議題1 令和2年度事業実施状況について

(嘉賀委員)

図書館職員がなかなか研修に出かけられない。そんな中、11月と12月に境港市民図書館に県立図書館から講師を派遣してもらった。今後もお願いしたい。

県立図書館を参考とさせてもらっている。いきいき音読教室のケーブルテレビとのコラボについて好評であったということだが、具体的にどういった意見があったのか。どのように活用していたのか。

(事務局)

放送は5分6話作成し、毎週1作品5分間放送した。2週間にわたって放送された。直接話は聞いていないが、放送局に再放送してほしいという声があったと聞いている。今回は東部だけしかできなかったのですが、来年度は東中西部でやっていきたい。

(嘉賀委員)

それぞれ家庭で見ていたのか。

(事務局)

家庭で見ている。ネットでも配信できるが、高齢の方もありケーブルテレビが身近。DVDも作成しているので貸出利用してもらうこともできる。

(木下委員)

ケーブルテレビ放送の経費は

(事務局)

今年度はお互いに初めてのことであり安くしていただいた。来年度は定額の経費で契約予定

(いしかわ委員)

テレビ放送の宣伝はどのようにされたのか

(事務局)

今回は急な取り組みであったため十分なPRはできていなかったが、HPや新聞にも取り上げてもらった。また、音読教室に参加されていた方には個別に連絡した。

(中村委員)

社会福祉協議会は市町村にもあり、地域の方と高齢者の「ふれあいサロン」をやっている。今回のテレビ放送をPRしていただくと集まるネタもできるかなと思う。市町村の社会福祉協議会にもPRさせていただければと思う。

(井口議長)

いつもなら来られない人も参加できてとてもよかったと思う。コロナ禍で考えられたものだと思うが、コロナ禍が過ぎても続けていただきたい。

(木下委員)

ルーラル電子図書館の利用は増えていると思うが、資料2の統計に色々なデータベースの利用状況が載っているとありがたい。

(事務局)

ルーラル電子図書館の利用は増えている。レファレンスに活用できるので市町村への普及も進めていく。データベースの利用数も数字で表せるようにしたい。

(大西委員)

子どもと本をつなぐ講座について、保育園の子どもたちは科学絵本のジャンルを好んでいる。是非今後も続けてほしい。

(いしかわ委員)

スキルアップのための研修講座の受講について、コロナで研修ができなかったとあるが、形式を変えてもできなかったのか。

(事務局)

図書館職員が県外に研修に行くもの。今年度はコロナで研修自体が開催されないという事が多くあり受講ができなかった。

(いしかわ委員)

今後、デジタル化を推進するならば研修は重要。方法も考えながらもっと積極的に参加された方が良いと思う。

(事務局)

今年度はコロナで様々な研修が実施されないこともあった。逆に県外主催のリモートでの研修もかなりあった。今までは参加できなかった新任職員・非常勤職員を対象とした図書館基礎講座的なものもオンラインで開催されたためそれに参加したり、全国図書館大会もリモートでの参加もできたため非常勤職員を含め館内職員も積極的に参加した。今まで参加できなかった職員の多くが参加できた。

## ○議題2 令和3年度事業実施計画

(池田委員)

来年度の研修講座でブックトークという話があった。主な事業内容にストーリーテリング研修講座と書いているがこれは別のものか。

(事務局)

ストーリーテリング講座はブックトークとは別のもの。対象が違っており、ストーリーテリング講座は県内市町村図書館職員対象、子どもと本をつなぐ講座はより広く公共図書館職員、学校関係者、読み聞かせボランティアなどが対象。

(池田委員)

日々のボランティアとして勉強する場所がない。ストーリーテリング研修をボランティアにも門戸を開いてもらいたい。

(事務局)

県立図書館はストーリーテリングに力を入れている。地元の図書館を通じて輪が広がってきている。県立図書館では土日にお話会を行っている。大人も参加できるものもあるので参加してほしい。

倉吉市立図書館などでは市の図書館で職員の研修会を開催している。3年前だったか図書館職員だけでなく、広く子どもと本に関わる方を対象として開催されている。そこに県立図書館から講師を派遣した。県立図書館で開催しても県内全域のボランティアの方に来ていただくことは難しく、地域の図書館が自立して開催してほしい。そこへの講師派遣は行っていく。

(木下委員)

新たにモンゴルとの交流を始めるということだが、韓国・中国・ロシアは環日本海諸国との交流だと考えているが、モンゴルと交流を始めるきっかけは何か。また、鳥取県のホームページを見ていると様々な言語がある中で、ベトナム語への対応や台湾・香港などとはされていないのか。ニーズはないのか。

(事務局)

モンゴル中央図書館との交流は、一昨年にモンゴル中央県の図書館長が県立図書館に来られ、是非交流をしたいということで始まったもの。ベトナムの方は多いと思うので、ベトナム語の本の収集にも努めていきたい。

(大西委員)

国際交流事業のタイムフェスティバルについて、留学生の方など県立図書館になじみがない方や足を運ぶ方も少なかったりするのではないのか。今後もこういう機会に出向いてそういう方を取り込む取り組みを期待する。

(事務局)

昨年度のタイムフェスティバルでは留学生との交流があり、そのあと図書館にも本を借りに来られた。継続していきたい。

(澤田委員)

図書館を居場所ということについては数年前から県立図書館と市町村立図書館が連携して打ち出された考え方と聞いている。県立図書館は30年を迎えたということで、30年前の当初に立ち返って考えると、その使命が市町村立図書館の支援であり、また学校支援を強く打ち出されている。地域と学校と連携して図書館を地域に浸透させていくことが大きなテーマではないか。その中で図書館が居場所になるということはとても大事な視点だと思う。図書館は身近にあるということが大事だと考えると、子どもたちにとって一番身近にあるのが学校図書館であり、市町村に住んでいる地元の方にとっては市町村立図書館が一番身近ものだと思う。

「学校図書館と連携し、校内で学校図書館が居場所として活動できることをPRする」とあるが、積極的にPRするのは大事なこと。何気なく学校図書館を訪れた子どもたちがそこで何かを見つける場になるといいなど。それは決して目に見えることではないが、そこにいるスタッフなどのソフト面をしっかりと守って行って、そこで何かきっかけがつかめる、それが子どもたちの将来の図書館の活用につながっていく。こういう取り組みを是非推進して行ってほしい。

(西山委員)

今年、新型コロナの関係で大学でも対面授業からオンライン授業に切り替わったりして、距離が関係ない教育環境に慣れてきた。距離が関係ないということは高齢者や障がい者にやさしい。高校や中学ではGIGAスクールでタブレットが入ってきて、コンテンツをどうするのかという時代になる。最近の記事を読むと電子書籍に関して図書館での導入がかなり増えてきている。まだまだ日本のプラットフォームが海外のようにちゃんとしていない。著作権の問題などもある。まだやりにくいところもあるが、取り組みの考え方の検討を始める時期ではないかと思う。なにか動きはあるのか。

(事務局)

電子書籍の検討については、以前楽天と鳥取県との包括協定締結の話のときに、楽天の子会社に電子書籍を扱っている会社があり、楽天と協議を行っていた。その時、楽天がその子会社を売却したため話が終わってしまった。この場合のように会社がなくなったときのサービスの継続の問題、また、紙の本は県民の財産として図書館に保管でき利用者は継続して利用できるが、電子書籍は権利を買うこととなるため、お金だけが毎年必要となるが、契約終了後には図書館には何ものこらない。様々なデメリットがあるが、図書館内でも今後検討が必要だと話をしていたところであり今後検討していく。

(嘉賀委員)

GIGAスクール構想に対する公共図書館の支援について、何が支援できるのかヒントがあれば教えてほしい。

(事務局)

ICTを活用したものとなるので、そこにどう対応していくか。例えば学校図書館支援であれば、活用できるインターネット情報のリンク集を作成して研修を行うとか、司書の情報検索の技術向上も考えなければならないのでそういった研修を行うとか。障がいがある方に有効なデイジーなどを紹介するなど。まだまだ課題はあるが一緒に考えていきたい。

(井口議長)

学校図書館での一つの役割に「情報センター」があるが、デイジーやインターネット検索など図書館に行けばそういうことも全部分かって教えてもらって情報をICTから得られる、その辺も学校図書館でやっていくことになる。一緒になってやっていきたい。

(事務局)

国のGIGAスクール構想でも司書や司書教諭の研修も含まれると書いてあり、研修も考えていく。

(大西委員)

子どもたちの居場所が図書館になっているということで、以前は保健室がそういった子どもたちの居場所といわれていた時期があった。ある学校の図書館の先生から、「どんな

本を選んだらよいか分からない子どもが以前より増えている」と聞いたことがある。「人が返した本を借りる子どもが増えている。図書室の書庫から自分が手に取って借りるということが少なくなっている」と聞いたことがある。

高校生に進めたい本のパンフレットなど、子どもたちの意識を変えるツールになるのではないか。小学生、中学生にもこのようなパンフレットがあればよいのではないか。

(池田委員)

県立図書館がグループでの読み聞かせのリストなどを作っていて参考にしている。支援の必要な子ども向けの絵本とか、その子たちが喜ぶ本のリストなども準備していただけるとありがたい。

○議題3 視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画  
意見等なし

○議題4 鳥取県立図書館の目指す図書館像に基づく図書館の評価  
意見等なし